

「新しい自分に出会える」そんなアドベンチャーをしてみませんか…

山口県十種ヶ峰青少年自然の家

とくさがみね 森のチャレンジコース



「とくさがみね森のチャレンジコース（森チャレ）」

このコースは、AFPY^{※1}やPA（プロジェクトアドベンチャー）^{※2}の手法を最大限に活用することで、比較的短時間でも高い教育効果を上げることができるよう設計されています。丸太やロープ、ワイヤーを大規模に組み合わせた構造で、地上約10mに設置されたハイエレメント及び低い位置に設置されたローエレメント、計49基からなる日本最大級の施設となっています。

このチャレンジコースで、様々な活動やアドベンチャーを体験することにより

- ・ **協力する心** や **思いやりの心** を育て、互いに **信頼し合う心** を高めます。
- ・ 新しいことや困難なことに挑戦する **チャレンジ精神** を高めます。

^{AFPY}
※1 AFPYとは、アドベンチャーフレンドシッププログラムインヤまくちの略

※2 PAとは、元々アメリカの教師たちが、「大自然で、長期に、グループで」開催されるOBS（アウトワード・バウンド・スクール＝世界的な冒険教育機関）の冒険教育の著しい教育効果に着目し、その概念や手法を学校教育に取り入れるという目的で開発されてきた様々なプログラムの体験学習です。

Q：どんなことをするのですか？

一見巨大なアスレチックの設備に見えるような、丸太やロープ、ワイヤー等で組み上げられた森チャレ設備を使います。グループのメンバーで互いに支え合いながら、浮き板やワイヤーを渡る活動や、通常ではあまり体験できないような高さの場所に登る活動などに取り組みます。



Q：なんのためにするのですか？

個人だけでは乗り越えられない課題に仲間と共に挑戦する中で、体験から学び、個人の成長を促すために行います。

活動中にグループカウンセリングの手法を生かした研修生同士の「ふりかえり」を行うことで、お互いを尊重し合い、課題解決のプロセスを重視して、体験して学んだことや考えたことを日常生活に生かすことができるよう、ファシリテーターは意図的に活動やふりかえりを仕組みます。



Q：危険はありませんか？

森のチャレンジコースには厳しい安全基準があり、毎年実施する定期点検でそれをクリアした設備を使っています。そして、全ての活動において指導者の適切な指導のもとで安全に行われます。

また、強制的な活動ではなく、どこまでやるかは自分で決めたいというチャレンジする活動です。他者との比較や競争ではなく、個々の挑戦意欲を尊重し、一歩でも踏み出してチャレンジできるよう、「心の安全」も大切に考えています。



Q：指導は誰がしますか？

人間関係づくりなど「教育活動」として利用する施設です。1班8人～15人程度（最大20人）で構成されたグループでの活動が中心となります。ファシリテーター(指導者)は自然の家所長が認めた研修を修了した者が行います。自然の家職員だけで足りない場合は、「外部講師」を自然の家が紹介します。（※指導者は、1班に1名は必ず必要となります。）まずは、山口県十種ヶ峰青少年自然の家へお問い合わせください。



Q：半日程度の利用はできますか？

半日程度の利用も不可能ではありませんが、グループ活動として教育効果を高めるためには、コースの性質上、「1日以上」のゆとりある時間での活動が望まれます。

とくさがみね森のチャレンジコースの使用について

自然の家では、森のチャレンジコースの研修を、安全に効果的に行うために、次のような使用についての取り決めを設けています。ご理解とご協力をお願いします。

1 基本方針

- (1) この研修活動が有する高い教育的効果を参加者が充実感を持って受け止め、研修効果を上げるため当該研修のプログラム内容を準備します。(意図的な教育プログラムとして実施します。)
- (2) 指導体制や実施時間等でゆとりあるプログラムを提供することにより、危険を排除し、安全の確保について万全を期します。

2 活動形態

(1) グループ構成

- ・ 原則1班8人～15人程度(最大20人)で構成されたグループ活動を基本とします。
- ・ グループごとにメインファシリテーター1人、サブスタッフ1人を配置します。
- ・ サブスタッフは、原則として研修団体の引率者が担当することとします。
※ 当該研修の性質上、適正規模を超える人数や指導スタッフが不足する場合には、研修の受け入れができませんのでご注意ください。

(2) グループの指導

- ・ グループのファシリテーター(指導者)は、自然の家所長が認めた研修を修了した者が行います。自然の家職員だけで足りない場合は自然の家が紹介します。(※指導者は、1班に1名は必ず必要となります。)
- ・ 各グループの「ふりかえり(活動ごとに行う話し合い)」は、メインファシリテーターとサブスタッフ(研修団体の引率者等)とでグループの状態を確認しながら実施します。日頃の様子を熟知したサブスタッフ(引率者)が「ふりかえり」を担当された場合、研修終了以降の学びにつなげていくうえで、高い効果が得られると考えています。

3 研修人数

- (1) 研修効果や安全面を考えて、最大100名程度が上限です。

※ 安全の確保を最優先に考えるため、大人数による活動の同時展開や、雨天時(屋内エレメントによる活動)の実施においては、必要に応じて相談・協議のうえで実施します。

4 外部講師について

- (1) 外部講師(自然の家職員以外)を必要とする場合は、自然の家が斡旋(外部講師の選定・連絡及び内諾を得るまで)します。※外部講師及び所属長等への正規の依頼手続きは各団体で行ってください。
- (2) 外部講師の謝礼等についての支払い事務は団体において行ってください。(自然の家は行いません。)

5 その他

- (1) 当該研修の実施にあたっては、教育活動としての目的・位置づけを明確にしてください。
- (2) 利用にあたっては、利用3週間前までに「入所申し込み手続き」を行ってください。
- (3) 外部講師の斡旋が必要となる場合は、原則として2ヶ月前に申し込み手続きを行ってください。
- (4) 外部講師は、必ず確保できる保障はありません。したがって、申し込み時においてご承知のうえ、手続きをしてください。その場合は、研修内容の変更等が必要となります。
- (5) 研修者が当該指導者の指示に従わない場合には安全上の理由から活動を中止することがあります。
- (6) 気温が5℃を下回る場合は、自然の家と実施の可否について協議することとなります。
- (7) 森のチャレンジコースにおける夜の研修は原則として行いません。団体で、自主研修プログラムを用意してください。
- (8) この研修に関してご不明な点などがありましたら、お気軽にお問い合わせください。

とくさがみね森のチャレンジコース紹介

とくさがみね森のチャレンジコースは、西日本最大級のエレメントコースが整備されています。

ローエレメント 16種23基 **ハイエレメント** 14種14基
屋内エレメント 10種12基 **合計** 40種49基

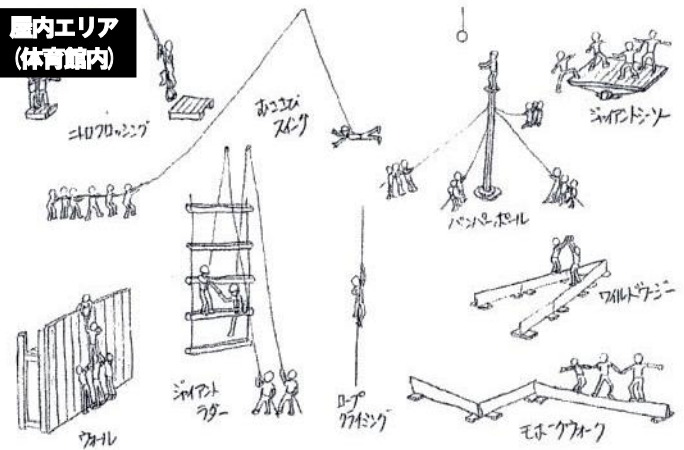
ローエレメント

低い位置に設置されたコース。相互にグループのメンバーで、支え合いながら挑戦する。コミュニケーションをとる中で、徐々に信頼関係が形成されていく。

ハイエレメント

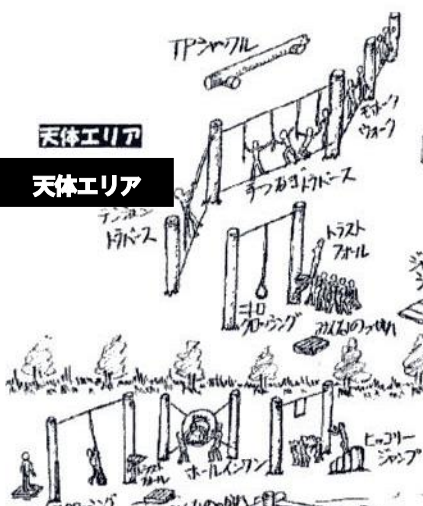
地上約10mに設置され、安全ベルトとロープでグループのメンバーに安全を確保してもらいながら行う。一人で挑戦するプログラムでは、高さへの恐怖心から強烈な自己との葛藤に出会う。また、二人で挑戦するプログラムもあるが、そこから得られる信頼、達成感などは日常では経験しがたいものである。

屋内エリア (体育館内)



天体エリア

天体エリア



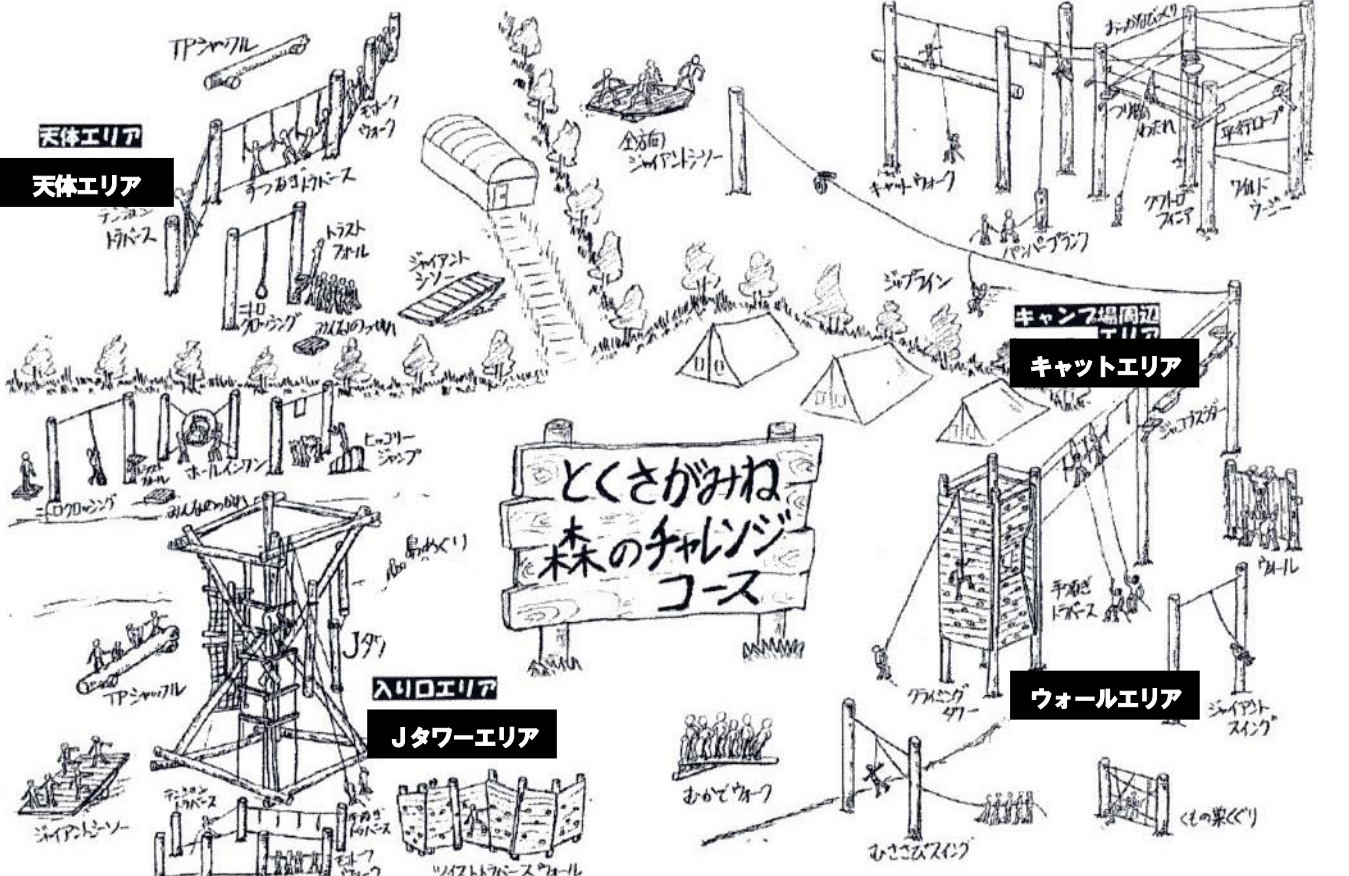
キャンプ場周辺 エリア

キャットエリア

ウォールエリア

入り口エリア

Jタワーエリア



森のチャレンジコース体験者の感想 (抜粋)

この体験で、たくさんの人に支えられる喜びや自分が誰かの支えになっていることへの喜びを感じることができました。これから、普段の生活の中でも、「人」の大切さや温かさを感じながら、自分自身の行動をふりかえっていきたいと思います。

何度も途中であきらめようかと思ったけれど、下にいる命綱を持ったみんながアドバイスをしてくれて、全部登れました。みんなが支えてくれたり応援してくれたから、勇気が出ました。これからは、自分のことだけでなく、周りの人に対して自分ができていることをやっていきたいです。

今回の研修では、みんなが必要だと思っていました。登ったり、飛び降りたりする勇気は、みんなの「頑張れ」という声でもらいました。みんなの応援が全然なければ、怖くてなかなか行けなかったと思います。みんなの一言から勇気をもらって、だんだんとみんなを信用していきました。

